

## プログラム第1日目:5月14日(土)

一般演題/□演

13:00~14:30

会場 2・5302 教室

### ●第1セッション 「病者・当事者」

司会：天田城介（中央大学）

#### 1-1 当事者活動のサブカルチャー的側面にみる活動の志向性の混交

○杉本 洋（新潟医療福祉大学）

#### 1-2 ハンセン病患者のコミュニケーション手段としての短歌

—ハンセン病短歌の形成における内田守の情熱をめぐって—

○松岡秀明（大阪大学）

#### 1-3 乳がんとともに生きる主体形成過程の考察—乳がん経験者の語りから—

○菅森朝子

#### 1-4 しびれている身体における「わからなさ」の経験

—回復期にある中枢神経障害患者へのフィールドワークから—

○坂井志織（首都大学東京人間健康科学研究科博士後期課程）

一般演題/□演

13:00~14:30

会場 3・5303 教室

### ●第2セッション 「支援とニーズ」

司会：井上洋士（放送大学）

#### 2-1 薬害HIV感染被害患者を支援対象者とした健康訪問相談における支援機能（第一報）

—支援提供者である訪問看護師を対象としたフォーカスグループインタビュー調査—

○久地井寿哉<sup>1</sup>・柿沼章子<sup>1</sup>・岩野友里<sup>1</sup>・大平勝美<sup>1</sup>

（社会福祉法人はばたき福祉事業団<sup>1</sup>）

#### 2-2 血液製剤由来 HIV 感染者の心理的支援方法の検討

○藤原良次（特定非営利活動法人りょうちゃんず）・山田富秋（松山大学）

## 2-3 子宮頸がん住民検診未受診者層を対象とした意識調査（中間報告）

—島根県出雲市等での自己採取 HPV 検査導入トライアル事業から—

○伊藤真理<sup>1,5</sup>・小西宏<sup>2</sup>・有藤亜希子<sup>3</sup>・岩成治<sup>4</sup>・松山裕<sup>5</sup>

（公益財団法人未来工学研究所<sup>1</sup>・公益財団法人日本対がん協会<sup>2</sup>・島根県出雲市健康増進課<sup>3</sup>・島根県立中央病院産婦人科<sup>4</sup>・東京大学大学院医学系研究科生物統計学分野<sup>5</sup>）

## 2-4 遺族ケアへのニーズに関する探索的な検討

—在宅緩和ケア遺族調査の結果から—

○板倉有紀（日本学術振興会）・田代志門（国立がん研究センター）

一般演題／□演	13:00～14:30	会場 4・5304 教室
---------	-------------	--------------

## ●第3セッション 「語り・ナラティブ」

司会：野口裕二（東京学芸大学）

### 3-1 ナラティブ情報の選択肢の提供の試み

—図書館における「医療情報コーナー」設置事例から—

○西河内靖泰（広島女学院大学）

### 3-2 笑いながら慢性の経過を語る

—2型糖尿病患者の病いの伝え方に関する検討—

○細野知子（首都大学東京大学院人間健康科学研究科）

### 3-3 慢性の痛みとともに生きる人の語りにみる「ストレス」

○濱雄亮<sup>1</sup>・佐藤幹代<sup>2</sup>・高橋奈津子<sup>3</sup>（慶應義塾大学<sup>1</sup>・自治医科大学<sup>2</sup>・聖路加国際大学<sup>3</sup>）

### 3-4 新生児マス・スクリーニングに対する認識

—タンデムマス・スクリーニングをめぐる出産女性の語りに注目して—

○笹谷絵里（立命館大学大学院先端総合学術研究科）

RTD①	12:30～14:30	会場 7・7 階中会議室
------	-------------	--------------

## 地域包括ケアシステムの機能向上モデルの検討

—保健師活用モデルを手掛かりとして—

企画者：友松郁子（ヘルスケア戦略コンサルタント）

話題提供者：本間 俊典（経済ジャーナリスト・患者の声協議会世話人）

津村 育子（東京医科歯科大学）

RTD②	12:30～14:30	会場 8・8 階大会議室 A
------	-------------	----------------

### 問題経験の語りと専門的知識

企画者・話題提供者：前田泰樹（東海大学）  
 企画者・司会者：酒井泰斗（無所属）  
 話題提供者：中村英代（日本大学）  
 鶴田幸恵（千葉大学）  
 指定討論者：浦野 茂（三重県立看護大学）

教育講演	14:45～15:35	会場1・5201
------	-------------	----------

### 教育講演

#### 薬害エイズの教訓から考える

花井十伍（大阪 HIV 薬害訴訟原告団代表）

司会：蘭由岐子（追手門学院大学）

シンポジウム	15:40～17:40	会場1・5201
--------	-------------	----------

### 〈薬害〉のナラティブ

#### —その共有と継承—

司会：山田富秋（松山大学）

### 薬禍の風霜

増山ゆかり（公益財団法人いしずえ サリドマイド福祉センター）

### 〈薬害〉経験伝承のための医療社会学的検討

本郷正武（和歌山県立医科大学）

### 「薬害を防ぐ社会」に繋ぐ薬害教育

望月眞弓（慶応義塾大学）

討論者：大西赤人（むさしのヘモフィリア友の会）・伊藤美樹子（滋賀医科大学）

## プログラム第2日目:5月15日(日)

一般演題/□演

9:15~10:45

会場 2・5302 教室

### ●第4セッション 「制度」

司会：黒田浩一郎（龍谷大学）

- 4-1 日本における医療機能の分化・連携策について  
—パーソンズ理論による整理—

○金子雅彦（防衛医科大学校）

- 4-2 自治体病院再編に対する住民の反対論の因子と実際  
—青森県西北五地域を対象として—

○伊藤嘉高<sup>1</sup>・村上正泰<sup>1</sup>（山形大学<sup>1</sup>）

- 4-3 戦後直後の結核療養における看護力  
—『結核看護心得帖』にみる教えから—

○程塚京子（日本医療科学大学・東洋大学大学院博士後期課程）

- 4-4 介護福祉士の夢あるキャリアパスとは  
—介護福祉士養成協会・介護福祉士会・4年制大学連絡協議会の構想より—

○横山正子（神戸女子大学）

一般演題/□演

9:15~10:45

会場 3・5303 教室

### ●第5セッション 「日常生活世界・コミュニケーション」

司会：樫田美雄（神戸市看護大学）

- 5-1 療育手帳を持たずに知的障害の診断がある成人の生活状況  
—生活のしづらさなどに関する調査（平成23年度、厚生労働省）より—

○北村弥生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

- 5-2 障害児家族の「オルタナティブ・ストーリー」  
—ライフストーリーの「リフレクシヴな自己言及」—

○渡邊文春（松山大学大学院）

5-3 医療におけるリスクのコントロール

○山縣弘子

5-4 精神科デイケアにおける相互行為

—初期エスノメソドロジーの観点から見る、日常生活世界としてのデイケア—

○河村裕樹（一橋大学大学院・日本学術振興会）

一般演題／□演	11:00～12:30	会場2・5302 教室
---------	-------------	-------------

●第6セッション 「看護・医療実践」

司会：林 千冬（神戸市看護大学）

6-1 療養病床において個別的な看護実践を行なうための観察への態度

○大達亮<sup>1</sup>・伊藤美樹子<sup>2</sup>・眞浦有希<sup>3</sup>・阿賀はるか<sup>3</sup>・山本真理子<sup>3</sup>  
（山口大学<sup>1</sup>・滋賀医科大学<sup>2</sup>・大阪大学<sup>3</sup>）

6-2 「提案してみる」から「なっていく」看護管理

—看護部長のワークの研究—

○西村ユミ<sup>1</sup>・前田泰樹<sup>2</sup>（首都大学東京<sup>1</sup>・東海大学<sup>2</sup>）

6-3 看護実践の中に埋めこまれた教育

—気管内吸引場面のビデオエスノグラフィ分析—

○松浦智恵美<sup>1</sup>・樫田美雄<sup>2</sup>  
（立命館大学大学院先端総合学術研究科<sup>1</sup>・神戸市看護大学<sup>2</sup>）

6-4 医師が泣くということ

—患者の死をめぐる医師の感情労働について—

○鷹田佳典（早稲田大学）

一般演題／ポスター （示説）	11:55～12:45	会場9・学生ホール
-------------------	-------------	-----------

司会：進藤雄三（大阪市立大学）

1 向老期に就労している女性透析患者の就労に対する認識と構成要素

—症例のインタビューからの検討—

○石井俊行（姫路独協大学）

## 2 男性看護師の生存戦略

—男性ならではの意識・行動・役割の様相—

○菅野俊介<sup>1</sup>・朝倉京子<sup>2</sup>・高田望<sup>1,2</sup>

(東北大学病院<sup>1</sup>・東北大学大学院医学系研究科<sup>2</sup>)

## 3 免疫療法をうけるがん患者の意思決定過程に関する研究

—文献調査および既存のインタビューデータの二次分析から—

大久保豪 (株式会社BMS 横浜)

## 4 慢性の痛みをもつ医療従事者の語りにみる病いの有益性

○佐藤幹代<sup>1,2</sup>・濱 雄亮<sup>3</sup>・佐藤 (佐久間) りか<sup>2</sup>・高橋奈津子<sup>3</sup>・射場典子<sup>2</sup>

(自治医科大学<sup>1</sup>・NPO 法人 健康と病いの語りディベックス・ジャパン<sup>2</sup>

慶応義塾大学<sup>3</sup>・聖路加国際大学<sup>4</sup>)

## 5 一般高齢者のヘルスリテラシーに関連する要因

—機能的・伝達的・批判的ヘルスリテラシー別の検討—

○瀬戸山陽子<sup>1</sup>・松本佳子<sup>2</sup>

(東京医科大学<sup>1</sup>・東京大学医学部在宅医療学拠点<sup>2</sup>)

## 6 終末期超高齢者の入院理由及び看護計画の特徴について

○山本真理子<sup>1</sup>・伊藤美樹子<sup>2</sup>・眞浦有希<sup>1</sup>・阿賀はるか<sup>1</sup>・大達亮<sup>3</sup>

(大阪大学大学院医学系研究科<sup>1</sup>・滋賀医科大学<sup>2</sup>・山口大学大学院医学系研究科保健学科<sup>3</sup>)

## 7 成人期を迎えた血友病患者の小児科受診状況

○阿賀はるか<sup>1</sup>・伊藤美樹子<sup>2</sup>・城本友恵<sup>1</sup>・眞浦有希<sup>1</sup>・多田世奈<sup>1</sup>・大達亮<sup>3</sup>

(大阪大学大学院医学系研究科<sup>1</sup>・滋賀医科大学<sup>2</sup>・山口大学大学院医学系研究科保健学科<sup>3</sup>)

RTD③	9:50~11:50	会場 5・5605
------	------------	-----------

「問題経験のナラティブをきく」話し合いの仕組み

—ナラティブなグループアプローチによる「問題経験のきき方」—

企画者：田代 順 (山梨英和大学)

話題提供者：伊藤佐枝子 (豊橋創造大学)

栗崎由貴子 (新潟医療福祉大学)

橋本 綾 (山梨立正光正園)

RTD④	9:50~11:50	会場 6・5606
------	------------	-----------

21世紀の新たな健康観と健康社会学を論じよう

企画者：朝倉隆司（東京学芸大学）  
 話題提供者：朝倉隆司（東京学芸大学）  
 池田光穂（大阪大学）  
 戸ヶ里泰介（放送大学）  
 長谷川万希子（高千穂大学）

RTD⑤	9:50~11:50	会場 7・7 階中会議室
------	------------	--------------

〈患者視点〉の今日的課題

—問題の所在、理論の再構築、臨床への活用—

企画者・司会者：松繁卓哉（国立保健医療科学院）  
 話題提供者：牛山美穂（早稲田大学）  
 孫 大輔（東京大学）  
 畠山洋輔（公益財団法人日本医療機能評価機構）  
 三澤仁平（立教大学）

RTD⑥	14:15~16:15	会場 5・5605
------	-------------	-----------

ケア実践をめぐる相互行為分析の射程と可能性

企画者：秋谷直矩（山口大学）  
 話題提供者：城 綾実（京都大学）  
 須永将史（神奈川大学）  
 黒嶋智美（日本学術振興会・千葉大学）  
 細馬宏通（滋賀県立大学）

RTD⑦	14:15～16:15	会場 6・5606
------	-------------	-----------

問題経験としての“病い”への接近と理解の可能性

企画者：齋藤貴子<sup>1</sup>・細野知子<sup>1</sup>・田代幸子<sup>1</sup>  
 (首都大学東京人間健康科学研究科看護科学域博士後期課程)  
 話題提供者：栩川綾子  
 (首都大学東京人間健康科学研究科看護科学域博士後期課程)  
 磯野真穂 (国際医療福祉大学大学院保健医療学看護学分野)  
 水津朋子 (北須磨訪問看護・リハビリセンター)  
 コメンテーター：鈴木智之 (法政大学社会学部)  
 西村ユミ (首都大学東京大学院人間健康科学研究科)

RTD⑧	14:15～16:15	会場 7・7 階中会議室
------	-------------	--------------

「臨床の語彙」を求めて  
 —患者の真意を伝える言葉の在処—

企画者：細田満和子 (星槎大学)  
 話題提供者：杉原正子  
 (独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター・  
 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)  
 入江 杏 (世田谷事件遺族・文筆家)  
 岡本晃明 (京都新聞)

RTD⑨	14:15～16:15	会場 8・8 階大会議室 A
------	-------------	----------------

改めて看護師の専門職性と責任を問う  
 —特定行為は、看護師の専門職性と責任に何をもちこたすのか—

企画者：朝倉京子 (東北大学大学院医学系研究科)  
 話題提供者：高田 望 (東北大学大学院医学系研究科)  
 杉山祥子 (東北大学大学院医学系研究科)